

園田 茂(編)

動画で学ぶ脳卒中のリハビリテーション [ハイブリッド CD-ROM 付]

里宇明元

(慶應義塾大学教授・リハビリテーション医学)

あの FIT(Full-time Integrated Treatment)プログラムという画期的な集中的・高密度リハビリテーションプログラムを提唱・実践し、世界をあっと驚かせた藤田保健衛生大学七栗サナトリウムのグループから、また、挑戦的なプロダクトが世に送り出された。選りすぐられた動画をふんだんに活用して、運動麻痺、歩行障害など日常臨床でよく経験する重要な症状や問題が一目で理解できるように工夫された、新世代の脳卒中リハビリテーションテキストの登場である。失語症や構音障害のパートでは音声も入れられており、まさに五感を総動員して脳卒中リハビリテーションの基本的スキルを「身につける」ためのガイドブックである。

初学者を対象にしているようであるが、実に多数の「一目でわかる」動画が要を得た解説とともに収録されており、ある程度経験を積んだリハビリテーションスタッフにとっても、「今さら恥ずかしくて人に聞けない」不確かな知識を再確認・整理するうえで大変有用な構成になっている。

CD-ROM をパソコンに入れ、クリックすると見慣れた Web ブラウザーが立ち上がり、本文の目次、動画の目次、そして索引という3つのメインメニューが現れる。症状・評価、運動学習、治療の大項目のもとに、脳卒中のリハビリテーションに関する重要なトピックスが体系的に整理されており、本文の目次にしたがって読んでいくと、ネットサーフィンをしているような感覚で基本的な知識を身につけることができる。本文を読みながら「動画」をクリックすると、まさに「動

かす」ことが可能であり、瞬時に言わんとすることが理解できる。「百聞は一見にしかず」である。

ただ、本書の本当の素晴らしさを実感したかったら、本文の目次よりも動画目次を思いつくまにクリックし、ぱっと飛び出す映像をまず目に焼き付けることをお勧めする。実地臨床では、細かいことをあれこれと考える前に、まずしっかりと現象を「見る」、「聞く」ことが出発点になる。自分が「みた」映像を何と表現したらいいのか、また、それが何を意味しているのか知りたくなったら、おもむろに解説の項をクリックして拾い読みすればよい。繰り返し見たり聞いたりしているうちに、いつの間にか多くの患者さんを実際に診たような気分になり、臨床の「腕」があがったような錯覚を覚えるかもしれない。「見る目を養う」うえで、本書は格好の素材を提供してくれるであろう。このように教育的な映像を多数集められ、わかりやすく系統的に整理された編集の園田先生をはじめとする七栗のスタッフに心から敬意を表したい。

ひとつ注文させていただくとすれば、動画を再生したときに本文の該当項目のエッセンスが音声で解説されるようになっていけばよりよかったかもしれない。評者のように面倒くさがりの人間にとって、また忙しい臨床家にとって、大きな福音となったであろう。さらに、個々の動画を個別に再生するだけでなく、一連のテーマに関係する画像をあたかも映画をみるようにワンクリックで続けて再生できれば楽しさが増すかもしれない。

勝手なことを言わせていただいたが、昔からコンピュータには疎い評者があしたい、こうしたいと無理難題を言うと、翌日にはあざやかに解決してあっと驚かせてくださった園田先生のこと、読者からの建設的なフィードバックがあれば、近い将来、あっと驚くバージョンアップがなされるかもしれない。今から楽しみである。

●B5 90 頁 2005 年 医学書院・刊
定価 4,935 円(本体 4,700 円+税 5%)